

みずな調査方法

1 試験区ならびに調査対象株数及び面積

項 目	必要株数(最少株数)	必要面積(最小面積) *
試験区(1区当り)	6畝×12株=72株(4畝×10株=40株)	1.08㎡(0.60㎡)
調査対象(1区当り)	生育調査等	20株(12株)
	収量調査等	20株(12株)

*: 栽植密度を畝幅20cm×株間7.5cm、a当り6667株としたときの面積

2 耕種概要

項 目	単 位	備 考
栽植密度	株数	(株/a)
	畝幅	(cm)
	株間	(cm)
1区面積		(m ²)
反復数		(反復)
播種期		(月 日)
播種方法		
播種粒数		(粒/株)
間引き日		(月 日)
前作物		
堆肥施用		(t/a、月 日)
基肥量	N	(kg/a)
	P ₂ O ₅	(kg/a)
	K ₂ O	(kg/a)
土壌区分		
土性		
腐植		
除草剤・病虫害防除		(薬剤名、月 日)
使用資材		(資材名、月 日～月 日)

3 生育調査

項目		調査基準	ランク	調査	単位	最小桁 調査
出芽	始	播種粒数の5~10%が出芽した日	B	観察	月日	1
	期	播種粒数の40~50%が出芽した日	A	観察	月日	1
	良否	出芽勢、出芽の揃いの程度を観察 [良]5~[不良]1	A	観察	指数	1
	率	播種後10日目頃の出芽割合	B	測算	%	1
収穫期		50%以上が規格内株となり、収穫可能となった日	A	観察	月日	1
生育日数		播種期から収穫期までの日数	A	算出	日	1
生育速度		生育日数から評価 5:速 標準品種に比べて5日以上速い 4:やや速 標準品種に比べて2~4日速い 3:同等 標準品種と同等(-1~+1日) 2:やや遅 標準品種に比べて2~4日遅い 1:遅 標準品種に比べて5日以上遅い	A	算出	指数	1
収穫期の草丈		最大葉における	A	測定	cm	1
障害の発生程度		障害の種類(虫害、根こぶ病など)別に 0:無 発生が認められない 1:微 10%未満の株に発生 2:少 10~20%未満の株に発生 3:多 20~40%の未満の株に発生 4:甚 40%以上の株に発生	A	観察	指数	1

4 収量調査

項目		調査基準	ランク	調査	単位	最小桁 調査
総収量		収穫株の合計	B	算出	kg	1g
規格内収量 *1		必要に応じて規格別に分類	A	算出	kg	1g
株数割合	規格内	(各株数/収穫株数) × 100	A	算出	%	1
	生理障害					
	病害					
	虫害					
	規格外					
欠株率		$((\text{収量調査対象株数} - \text{収穫株数}) / \text{収量調査対象株数}) \times 100$	A	算出	%	1

*1 規格は地域での出荷基準に合わせる。

5 特性調査

項目	調査基準	ランク	調査	単位	最小桁
					調査
平均一株重	規格内収量／規格内株数	A	算出	g	1
株張り	[良]5～[不良]1	A	観察	指数	1
葉色	[濃]5～[淡]1	B	観察	指数	1
葉色(SPAD)	長い葉5枚の葉緑素計測定値の平均値を株の代表値とする	B	測定	—	0.1

6 調査試験栽培上の留意点

- 1) 播種は、試験区内の生育を揃え、欠株の発生を防ぐために2～3粒の点播とし、本葉2～3葉期頃に間引きを行う。
- 2) 一斉収穫ではなく、収穫期に達した試験区ごとに収穫し、収量調査を行う。
- 3) 規格は地域での出荷基準に合わせる。